

JFEシビル

5年かけBIM全面導入

プレゼンから業務ツールへ

JFEシビルは、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）の本格導入に踏み切る。受注時のプレゼンテーションツールとして活用してきたBIMを、設計や施工の業務ツールに位置付け、作業効率化につなげるのが狙い。組織横断のBIM推進部も発足し、設計・施工の実案件で初の導入プロジェクトも進行中だ。BIM推進部長を務める長田肇建築事業部副事業部長は「5年かけ設計部門に全面導入する」とし、社としてBIM対応に舵（かじ）を切ったことを明かす。

は鉄筋などの干渉チェックや施工図の省力化などにも活用する。先行して現在35人体制の設計部門にBIM操作のスキルを広げ、並行して施工部門への対応も進める方針だ。長田推進部長は「いずれ全員がBIMに対応する体制を目指したい」と強調する。

これまでは大型物流施設を中心に受注時のプレゼン活動の際に積極活用してきた。作業効率化や図面間の不整合防止などに効果があることから、ことし1月に建築とシステム建築の両事業部を横断する10人体制の推進部を立ち上げた。3次元モデルを自社内で作成する方針で、フィリピン現地法人のリオフィル社を窓口にして2人のフィリピンエンジニアも採用し、推進部メンバーとして迎え入れた。神奈川県藤沢市で施工するS造4階建て延べ約1000平方メートルの学習塾・共同住宅を、初のBIM導入プロジェクトに位置付け、設計段階から全面導入に踏み切った。2016年度中には計3件のプロジェクトで導入検証を進める計画で、プロジェクト数を増やしながら組織の対応力強化を図る。

設計段階における施主との合意形成に加え、施工段階で